

撮影から展示まで ワークショップの流れ



1. 撮影の前にグループに分かれて、それぞれに何を伝えたいか撮影テーマを話し合います。



2. 次にカメラの一通りの使い方を学びます。



3. フィールドに出ていよいよ撮影開始。



4. 写真撮影と同時に、被写体となってくれた方に取材もします。



5. 撮影した写真を見せ合い意見交換。写真の説明を書くことで自分たちの思いをより明確に伝えます。



6. 各地の写真展やウェブサイトで、子どもたちの撮影した写真を発表していきます。

EYE SEE ポータルサイトでは、プロジェクトの最新情報をはじめこれまで参加したすべての子どもたちが撮影した写真作品をご覧いただけます。

EYE SEE ポータルサイト

www.sony.co.jp/eyesee/



子どもたちの社会参加を促すツールの提供

ソニーが EYE SEE に提供する機材は、デジタルカメラとメモリーカードをはじめ、ワークショップによってさまざま。写真撮影を楽しみながら、自分たちのコミュニティの現状を見つめ、仲間とつながり、世の中に発信するといった子どもたちの社会参加への第一歩を後押しするツールになります。



ユニセフは、特定のブランドや製品の推奨を行うことはありません。 日本ユニセフ協会 www.unicef.or.jp

ソニーのCSR・環境活動 www.sony.co.jp/csr/

掲載内容は2014年3月現在の情報です

SONY

EYE SEE ユニセフ子ども写真プロジェクト



EYE SEE

ユニセフ子ども写真プロジェクト

— 世界の見方を変える、子どもたちの視線 —



For the Next Generation



1403091



次世代を担う 子どもたちの声を。

EYE SEE とは

世界には、自分の写真もなければ、デジタルカメラに触れたことがない子どもたちがまだまだ大勢います。EYE SEE ユニセフ子ども写真プロジェクトは、そんな子どもたちに写真撮影の体験を通して身の回りの問題について考え、想いを表現する力を養ってもらおうプロジェクトです。ソニーは、ユニセフが主催するこのワークショップをサポートするとともに、作品に込められた子どもたちのメッセージを広く世界に伝えるための活動を行っています。

極度の貧困の撲滅や教育を受ける権利など「ミレニアム開発目標（Millennium Development Goals: MDGs）」に掲げられる課題について考えるきっかけとなる EYE SEE。ワークショップでは、テーマに沿った風景や人物を子どもたち自らが選び、シャッターを切ります。その中で、自分たちの社会が抱える課題に気づき、仲間と一緒に考える大切さを学んでもらう。それがこのプロジェクトの最大の目的です。EYE SEE に参加した子どもたちは自分の思いや考えを写真で表現し、誰かに伝えることの意味を知ります。そして、その体験が彼らの人生の糧となり、コミュニティに明るい未来をもたらす力となる。ソニーはそう信じています。

子どもたちのメッセージを世界の人たちへ

災害からの復興や学校に通う権利など、世界各地の子どもたちが自分たちでテーマを決め撮影した写真の数々。子どもたちを取り巻く社会の希望や課題、子どもたちならではのメッセージが詰まった作品は、言葉の壁を越え人々の感性に訴えます。撮影者や被写体の「その時」と「思い」を感じ、世界の新しい見方を教えてくれる、子どもたちの視線を知ってください。



© UNICEF/Japan2011/Kaoru



佐野 薫 15歳
花。バックには、ショベルカーが2台いる。がれきを撤去してるんだと思う。花はバックにくらべて色がきれいだから、希望が見える。
日本(岩手), 2011年



© UNICEF/Rwanda2007/Bruce Mutabazi



ブルース 13歳
彼女は診察まで長く待たされて、靴を脱いでしまったんだ。
ルワンダ, 2007年



© UNICEF/Serbia2013/Irena



イレナ ヴツェッチ 14歳
家族を養うために両親が必死に働いている間、おばあちゃんが子どもの面倒を見ている。これは日常生活でごく普通のことになりつつあります。
セルビア, 2013年



© UNICEF/Argentina2013/Carlos



カルロス マルコス 14歳
あちこちが焼けてしまったので、自然が痛めつけられていることを表現するために、学校の先生たちが、泣いて怖がっている顔を木の幹に描きました。
アルゼンチン, 2013年